



商業者や地域住民のエリアブランディングによる協働型支援

●対象エリア

- ①上町商店連盟
- ②羽生市中央商店街協同組合
- ③松原通り商店会

●会員数

- ①約15 ②約25 ③約8

●商店街区形状（立地環境）

- ①住宅地 ②沿線沿い ③住宅街

●特徴

羽生市の商業中心地であり、夏祭りや商工祭りなど大きなイベントが複数回開催されている。一方、店主の高齢化により商店街活動の人手不足が起きている。



BEFORE

①店主の高齢化による商店街の担い手不足

店主の高齢化や後継者不足により、商店街活動を担う人材が不足しており、市役所や商工会が活動をサポートが必要になっている。

②空き店舗の活用が進まない

廃業した店舗の多くが住居一体になっている。このため、貸し出すことで所有者の生活への影響が出てしまうことから、店舗を貸したがる所有者が多い。貸店舗化されていないことで、所有者に対してアプローチする方法がなかなかなく、空き店舗の活用が進まない状況。

AFTER

①商店街やまちに係わる人材の参加促進

商店街やまちを支援する組織を整備し、ワークショップや広報活動を通じて、今まで地域に係われなかった人材の参加を促進した。気軽に参加できる仕組みを整備し、人材が無理なく活動に参加できるようになった。

②物件所有者との関係性構築による貸店舗化の促進

空き店舗の所有者に対して、協力の依頼文の配布、空き店舗所有者へのインタビュー等の実施により、複数の空き店舗所有者との関係性が築けた。これにより空き店舗の貸店舗化が促進された。

取組の概要

●商業者、地域住民や学生などを巻き込んだエリアビジョンの策定

事業推進の道標となるビジョンを策定するために、地域住民や商業者を巻き込んだワークショップを開催。「常設のミニシアターが欲しい」「自習する場所が欲しい」などの意見を参考に「遊びと学び」というビジョンを策定。

●商店街や地域に伴走する組織の整備

事業を担う組織を整備するにあたり、プロジェクト名称「MALL DESIGN」とロゴを設定。そして、MALL DESIGN実行委員会の仕組みとして、「メンバー」「アシスタント」「サポーター」と事業の中心から可能な時だけ参加まで三段階の参加方法を設定し、多くの人が無理なく参加しやすいようにした。

●空き店舗の所有者に対する様々なアプローチ

空き店舗の貸店舗化を図るため、対象地域の空き家・空き店舗へ全戸（50戸）配布。大規模イベントの開催時は実際に空き店舗を活用し、お試し出店を実施。空き店舗のオーナーに実際に使用されているところを見てもらい、空き店舗を貸し出した際のイメージをつかんでもらった。

●空き店舗を活用した拠点の整備

「MALL DESIGN」の活動の拠点として、空き店舗を活用した施設を整備。様々な人が商店街に来街するきっかけづくりのために、図書室機能やイベントスペース機能を持たせる。

中心機能となる図書室の本や家具は、地域の住民から寄付してもらうことで、地域住民に拠点を知ってもらうきっかけとなる。

成功への道のり

工夫した点

●商業者や地域住民が協働する支援組織の整備

エリアブランディングの発想に基づき、ブランドイメージを浸透させるためロゴ等を整備したプロジェクト「MALL DESIGN」を立ち上げた。HPやSNSを設け、開かれた組織を整備することで、商店街や地域に協力したい団体や人材が関わりやすくなった。



●空き店舗所有者への様々なアプローチ

貸店舗化されていない空き店舗の所有者に対し、協力のお願いの文書の配布、大型イベントでのチャレンジ出店、まだお店が営業していたころの話を伺うインタビュー、実際に空き店舗を拠点として活用するなど、様々な取組を通じて所有者との関係性を築いた。これにより貸店舗化の促進へとつなげていく。

